



奄美大島から得られた国内 2 個体目のベラ科魚類ヒイロモチノウオ

出羽優風¹・前川隆則²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

k2533560@kadai.jp

² 株式会社前川水産 (奄美市)

³ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 07 May 2021

Revised 08 May 2021

Accepted 08 May 2021

Published 10 May 2021

DOI 10.34583/ichthy.8.0_5

Yuna Dewa, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2021. Second Japanese record of *Oxycheilinus arenatus* (Labridae) from Amami-oshima island, Ryukyu Islands, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 8: 5–7.

Abstract

A single specimen (128.7 mm standard length) of *Oxycheilinus arenatus* (Valenciennes, 1840) (Perciformes: Labridae), widely distributed in the Indo-Pacific, was collected from Amami-oshima island, Ryukyu Islands, Japan. This species has previously been recorded in Japanese waters based only on one market specimen from the Ryukyu Islands (precise locality unknown). The present specimen represents the second record of the species from Japan.

スズキ目ベラ科ホスジモチノウオ属 *Oxycheilinus* Gill, 1862 は、背鰭が 9 棘 10 軟条、臀鰭が 3 棘 8 軟条、背鰭前方鱗が 6 列、体高が低く頭長より短い、下顎先端が上顎先端よりもやや前方に突出する、側線が不連続、および前鰓蓋骨後縁が無鱗であることなどの特徴から同科同属と区別される (Westneat, 2001)。本属魚類はインド・太平洋から 10 有効種が知られている (Parenti and Randall, 2011; Fukui et al., 2016)。国内からはヒイロモチノウオ *O. arenatus* (Valenciennes, 1840)、タコベラ *O. bimaculatus* (Valenciennes, 1840)、ハナナガモチノウオ *O. celebicus* (Bleeker, 1853)、ホスジモチノウオ *O. digrammus* (Lacepède, 1801)、カタグロホスジモチノウオ *O. orientalis* (Günther, 1862)、サカヤキホスジモチノウオ *O. samurai* Fukui, Muto and Motomura, 2016、およびヒトスジモチノウオ *O. unifasciatus* (Streets, 1877) の 7 種が記録されている (島田, 2013; Fukui et al., 2016; 出羽ほか, 2020)。

2021 年 3 月 10 日、奄美大島近海で 1 個体のヒイロモチノウオが漁獲された。本種は日本国内において琉球列島から写真などに基づく記録は多くあるものの、標本に基づく記録は琉球列島 (詳細な産地は不明) から得られた 1 個体に限られていた (出羽ほか, 2020)。したがって、奄美大島産の本標本を国内 2 個体目の記録としてここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Randall et al. (2003) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、標準体長は体長と表記した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本 [KAUM-I. 156089, 体長 128.7 mm, 鹿児島県奄美大島近海 (名瀬魚市場に水揚げ)、一本釣り, 2021 年 3 月 10 日, 前川隆則; Fig. 1] は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されている。

結果と考察

本標本の計数・計測形質は以下の通り：背鰭 9 棘 10 軟条；臀鰭 3 棘 8 軟条；腹鰭 1 棘 5 軟条；胸鰭 12 軟条 (最上 2 軟条は不分枝)；尾鰭 15 軟条 (上下各 2 軟条は不分枝)；前方側線有孔鱗数 13, 後方側線有孔鱗数 9, 2 側線間鱗列数 1；背鰭前方鱗列数 6；鰓耙数 12 (上枝 4, 下枝 8)。体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り：体高 33.2；体幅 14.8；頭長 39.2；吻長 14.1；眼窩径 9.9；両眼間隔幅 7.7；上顎長 13.3；尾柄高 14.4；尾柄長 12.9；背鰭前長 43.1；臀鰭前長 67.4；腹鰭前長 43.4；背鰭基底長 50.3；背鰭第 1 棘長 7.6；背鰭第 9 棘長 12.7；背鰭最長軟条長 (第 8 軟条) 13.4；臀鰭基底長 21.8；臀鰭第 1 棘長 6.2；臀鰭第 2 棘長 8.6；臀鰭第 3 棘長 12.4；臀鰭最長軟条長 (第 1 軟条) 13.2；尾鰭長 35.8；胸鰭長 16.4；腹鰭棘長 11.3；腹鰭最長軟条長 (第 1 軟条) 18.1。奄美大島産の標本は、背鰭第 1–4 棘間の鰭膜に 1 黒色斑があること、眼後方から尾鰭基部までの体側中央に明瞭な 1 暗色縦帯があること、および背鰭前部直下に黒色斑がないことが、Westneat (2001) や出羽ほか (2020)



Fig. 1. Fresh specimen of *Oxycheilinus arenatus* (KAUM-I. 156089, 128.7 mm standard length) from Amami-oshima island, Ryukyu Islands, Japan.

が報告したヒイロモチノウオ *Oxycheilinus arenatus* の標徴と一致したため、本種に同定された。

本研究で用いた標本は生殖腺が未発達であったが、本標本の体長は 128.7 mm と Westneat (2001) が示した本種の最大体長 (約 16 cm) に近いことと頭部背縁が窪んでいることから、成魚であると考えられる (Westneat, 2001). 本種は生息水深が 40–60 m と深く、警戒すると体色を変化させて素早く巣穴に隠れる行動がみられる (Allen and Erdmann, 2012; 西山・本村, 2012). 本種の幼魚は頭部背縁に窪みがみられないことが報告されているが (Westneat, 2001), 生時の色彩や生態についてはこれまで観察・報告されておらず (加藤, 2016), 今後のさらなる調査が必要である。

Oxycheilinus arenatus は紅海を含む西インド洋から日本、仏領ポリネシア・ソシエテ諸島にかけてのハワイを除く太平洋に広く分布する (Allen and Erdmann, 2012; 加藤, 2016). 日本国内において、藤山 (2004) は奄美大島で釣獲された *O. arenatus* を *Bodianus* sp. として写真に基づき報告した。その後、西山・本村 (2012) と加藤 (2016) は、沖縄島で撮影された水中写真に基づき本種を報告した。奄美大島の魚類相をまとめた Nakae et al. (2018) は藤山 (2004) を引用して奄美大島から本種を報告した。出羽ほか (2020) は奄美大島から石垣島にかけての琉球列島から漁獲された 1 標本 (那覇市泊の市場で購入; 詳細な産地は不明) に基づき本種を報告し、新標準和名ヒイロモチノウオを提唱した。ヒイロモチノウオの国内における分布の記録は上記のもののみであるため、本報告は本種の標本に基づく国内 2 個体目の記録となる。

謝 辞

鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには、適切な助言をいただいた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiv + 1294 pp.
- 出羽優風・桜井 雄・中村潤平・本村浩之. 2020. 琉球列島から得られたベラ科魚類 *Oxycheilinus arenatus* ヒイロモチノウオ (新称) および標準和名モチノウオの再検討. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-049 (17 Feb. 2020), 67: 67–71 (25 Apr. 2020).
- 藤山萬太. 2004. 私本奄美の釣魚. 奄美共同印刷, 奄美. viii + 181 pp.
- Fukui, Y., N. Muto and H. Motomura. 2016. A new species of labrid fish *Oxycheilinus samurai* from the western Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-016-0561-4 (8 Dec. 2016), 64: 212–220 (4 Aug. 2017).
- 加藤昌一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック ベラ & ブダイ. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)

- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のベラ大図鑑. 東方出版, 大阪. 303 pp.
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2011. Checklist of the species of the families Labridae and Scaridae: an update. *Smithiana Bulletin*, 13: 29–43. (https://www.saiab.ac.za/uploads/files/smithiana_bulletin/smithiana_bulletin_13/smithiana_bul13_29-43.pdf)
- Randall, J. E., M. W. Westneat and M. F. Gomon. 2003. Two new labrid fishes of the genus *Oxycheilinus* from the South Pacific. *Proceedings of the California Academy of Sciences*, 54: 361–370.
- 島田和彦. 2013. ベラ科, pp. 1088–1136, 2045–2020. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Westneat, M. W. 2001. Labridae, wrasses (also, hogfishes, razorfishes, corises, and tuskfishes), pp. 3381–3467. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals.* FAO, Rome. (<http://www.fao.org/3/y0870e/y0870e00.htm>)